

環境省による向島ドブネズミ対策実施状況

1. 実施概要

(1) 対象範囲

向島内台地上 (22.9ha)

→オガサワラカワラヒワの過去の営巣地などの情報をもとに専門家の助言を受け設定された地域を対象に、現地を踏査し、地形や植生等を踏まえてベイトステーション（以下「BS」）を設置。「対象範囲」は、BS の有効範囲である BS からの半径 25m を繋げた範囲。（図 1）

(2) 対象種

ドブネズミ。向島にはドブネズミのみが生息。

(3) 実施期間

令和2（2020）年12月～令和3（2021）年7月

(4) 対策手法

①BS による殺鼠剤散布

- ・使用殺鼠剤：第1世代抗凝血性剤（ダイファシノン）の粒剤
- ・ベイトステーション設置基数：220 基
- ・殺鼠剤補充量：各 BS に 100g～300g（※調査時期により補充量が異なる）
- ・点検・殺鼠剤補充頻度：月 1 回程度（※海況不良などの理由により、1 カ月以上期間が空いた場合もあり）
- ・ドブネズミの誘引のため、BS 内に煮干しを入れた茶こしカゴを設置
- ・カビによる喫食低下を防ぐため、令和3（2021）年4月より点検時に残存していた殺鼠剤は全て交換することとし、殺鼠剤はカップ内に入れて BS 内に設置（カップについて一部5月から導入）



写真 1 ベイトステーション内部の状況

②センサーハメによるドブネズミのモニタリング

- ・対象範囲内に 10 台、対策範囲外に 10 台の合計 20 台のセンサーハメを設置。
- ・誘引のため、ハメの画角内に殺鼠剤及び煮干しを入れた BS を設置。
- ・ベイトステーションと同様に月 1 回程度の頻度でデータを回収（継続実施中）。

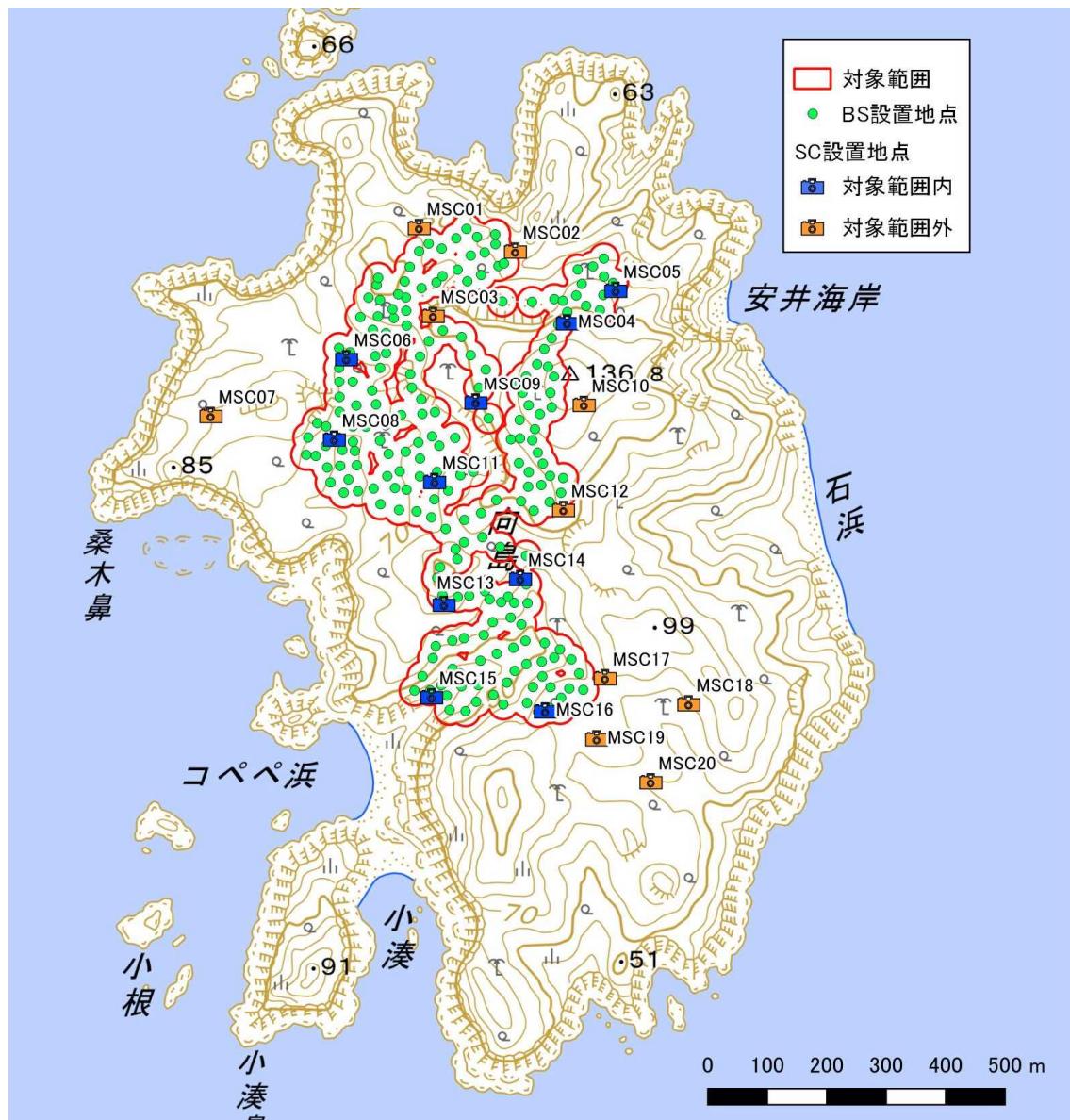


図 1 向島におけるネズミ対策実施地点

※「SC」はセンサーハメの略

2. 結果

(1) 殺鼠剤消費状況

- ・点検1回目の消費率が最も高く、その後、令和3（2021）年4月点検回までは半数以上が消費率0%～50%であったが、5月点検回以降、消費率が上昇した。（図2）
- ・点検2回目（2/9）～4回目（4/28-29）までは対象範囲南部、西部で消費率が高かつたが、点検5回目以降は南部、東部、北部でも高い消費率が確認された。（図3～図5）

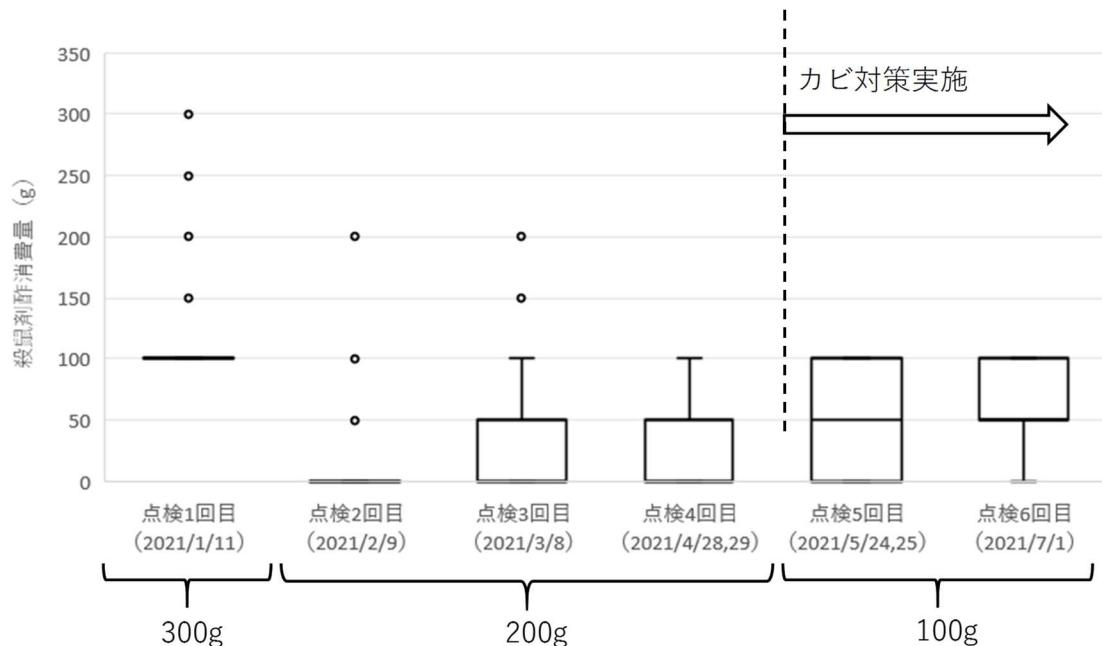


図2 各点検回における殺鼠剤消費量（グラフ下のg数は補充量を表す）

※BSの設置数は220。「カビ対策」は、1.（4）①を参照。

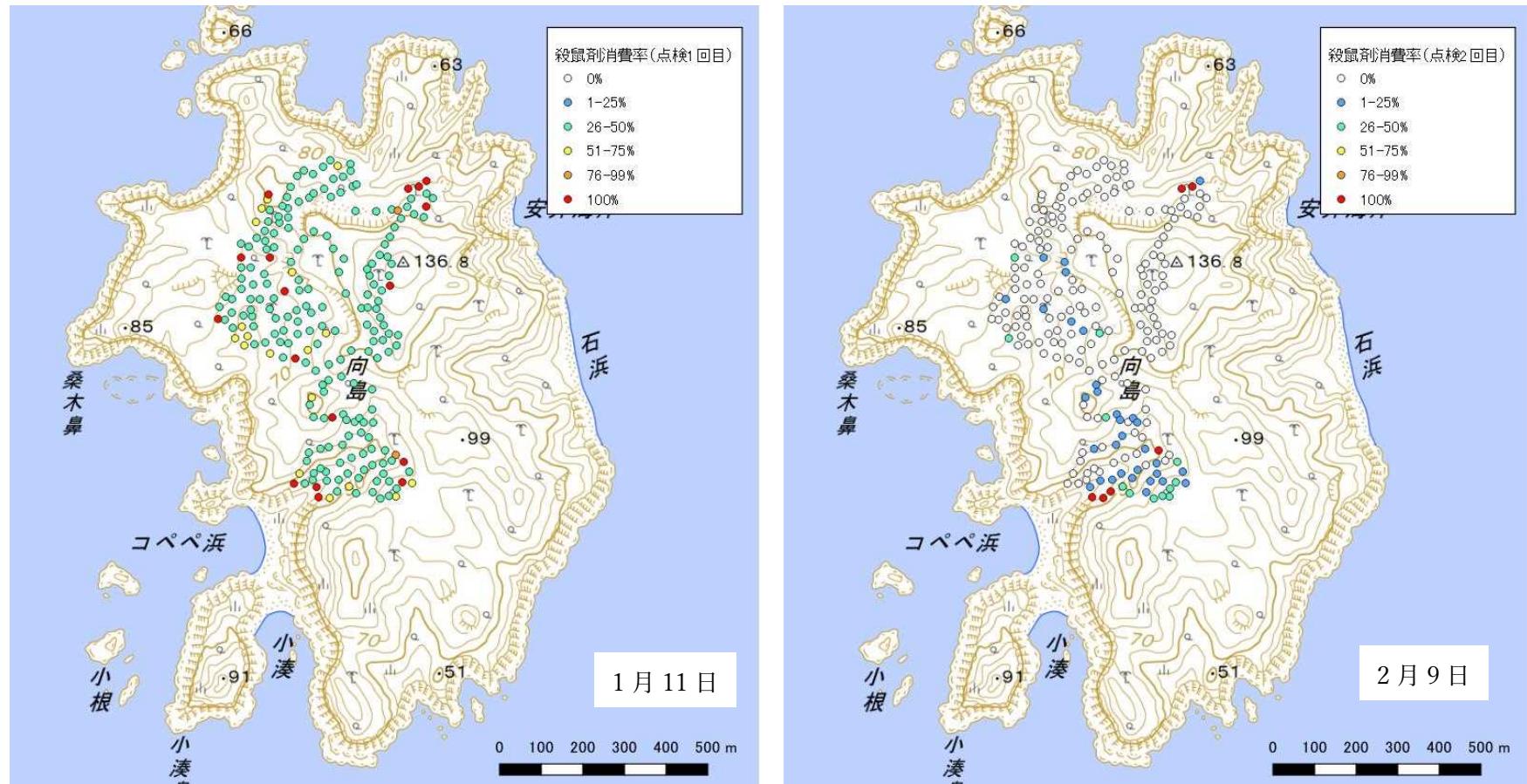


図3 各BSにおける殺鼠剤消費率

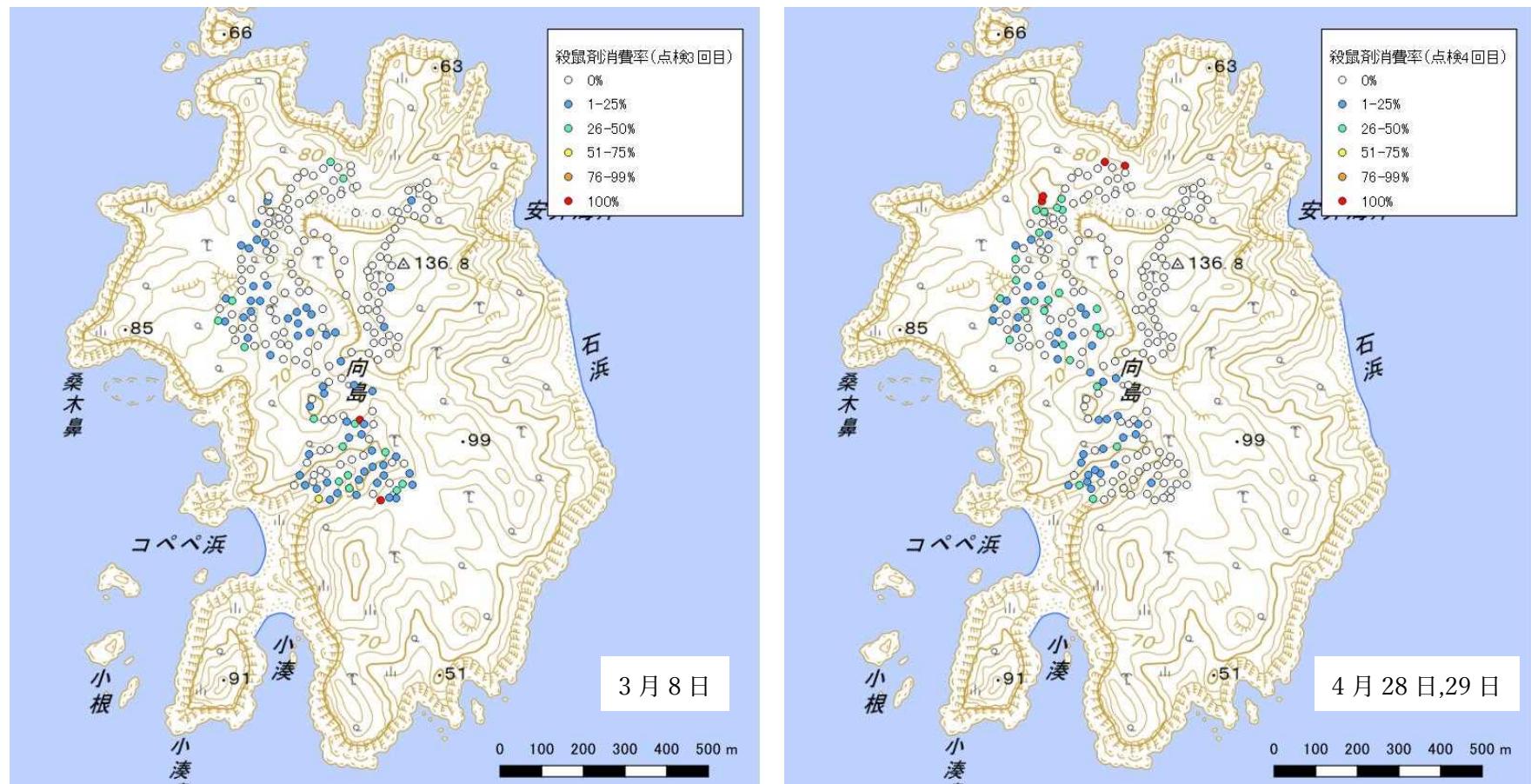


図4 各BSにおける殺鼠剤消費率

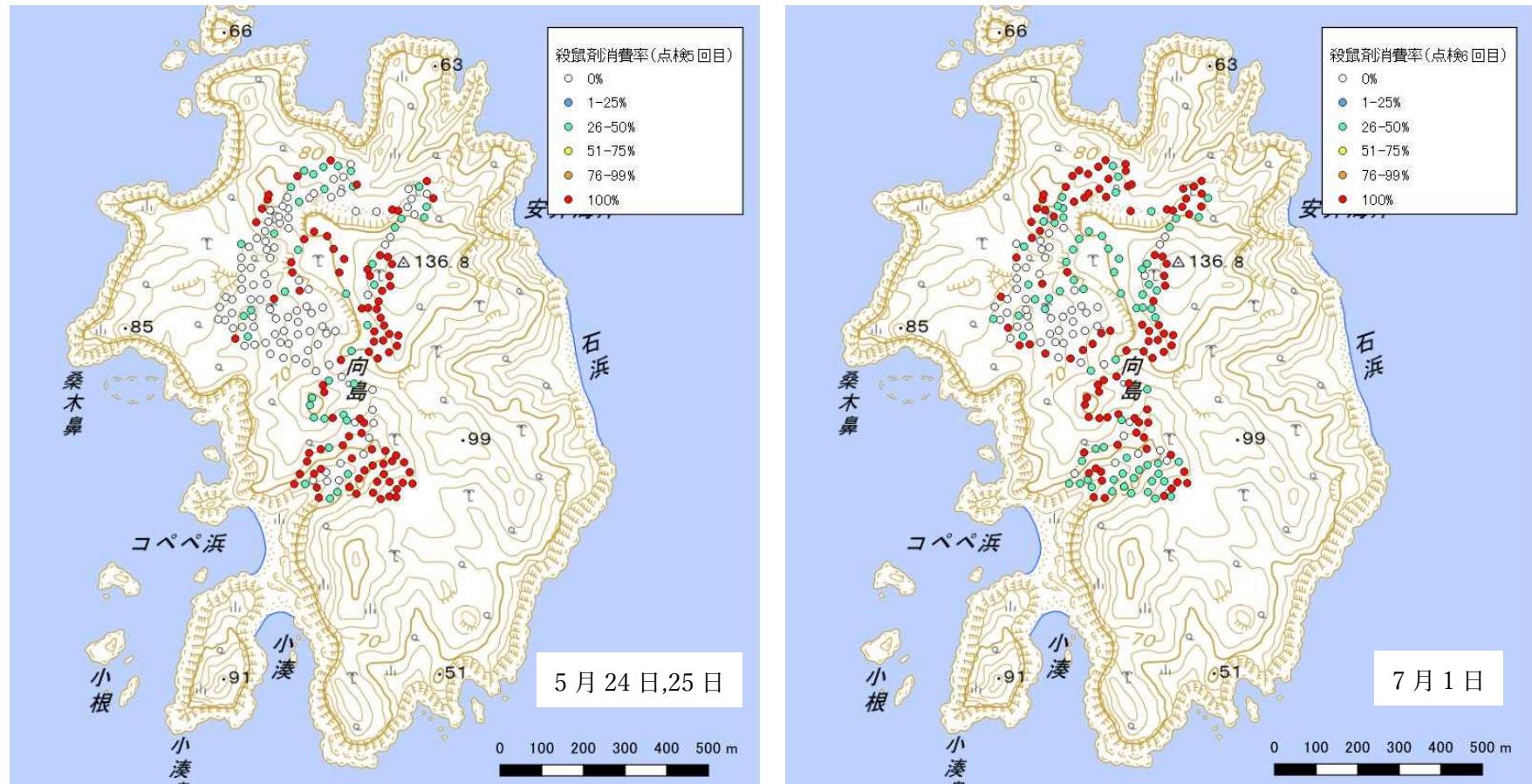


図5 各BSにおける殺鼠剤消費率

(2) センサー撮影結果

- 対象範囲外に比べて対象範囲内は低い値で推移。(図7)
- 令和2(2020)年12月から令和3(2021)年4月にかけて撮影率はエリア内外ともに減少したが、5月に撮影率が上昇。6月以降は再び減少傾向を示した。(図7)
- 対象範囲内で5月以降に比較的撮影率が高かったのは、MSC5、8、14、16であった。(図7、図8)

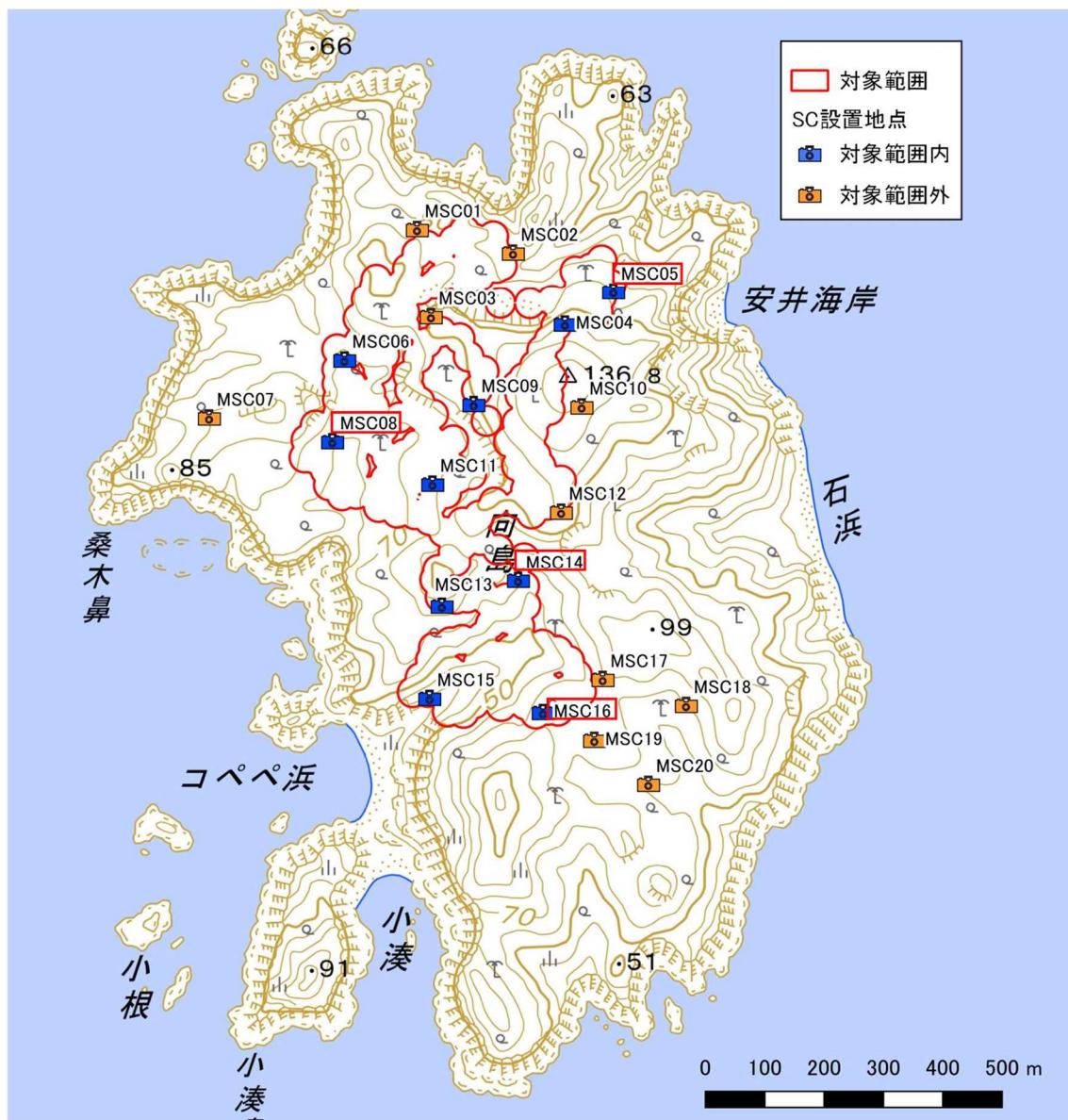


図6 SC 設置地点

※SC 地点名の赤枠は対象範囲内で令和3(2021)年5月以降の撮影率が比較的高かった地点を示す。

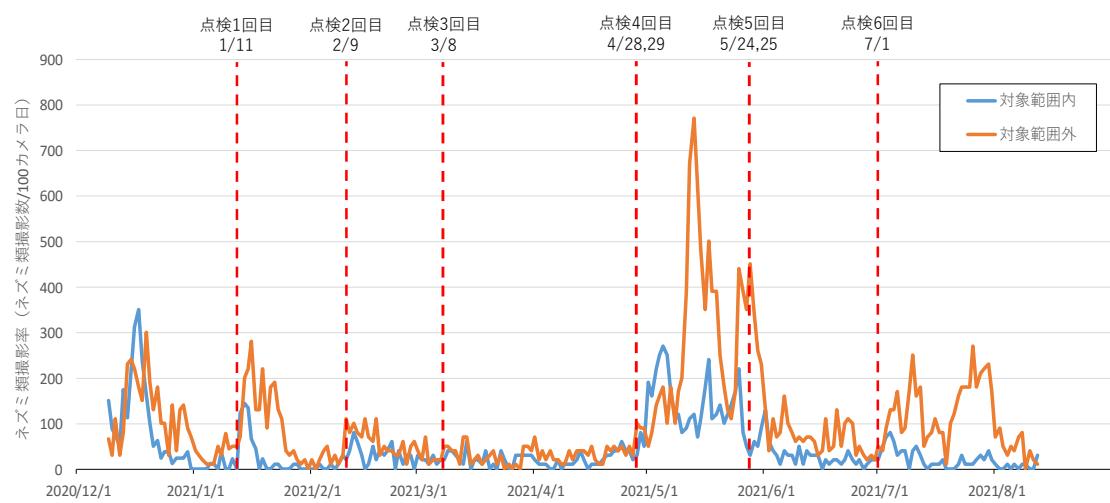


図7 センサーカメラによるネズミ類撮影率の推移

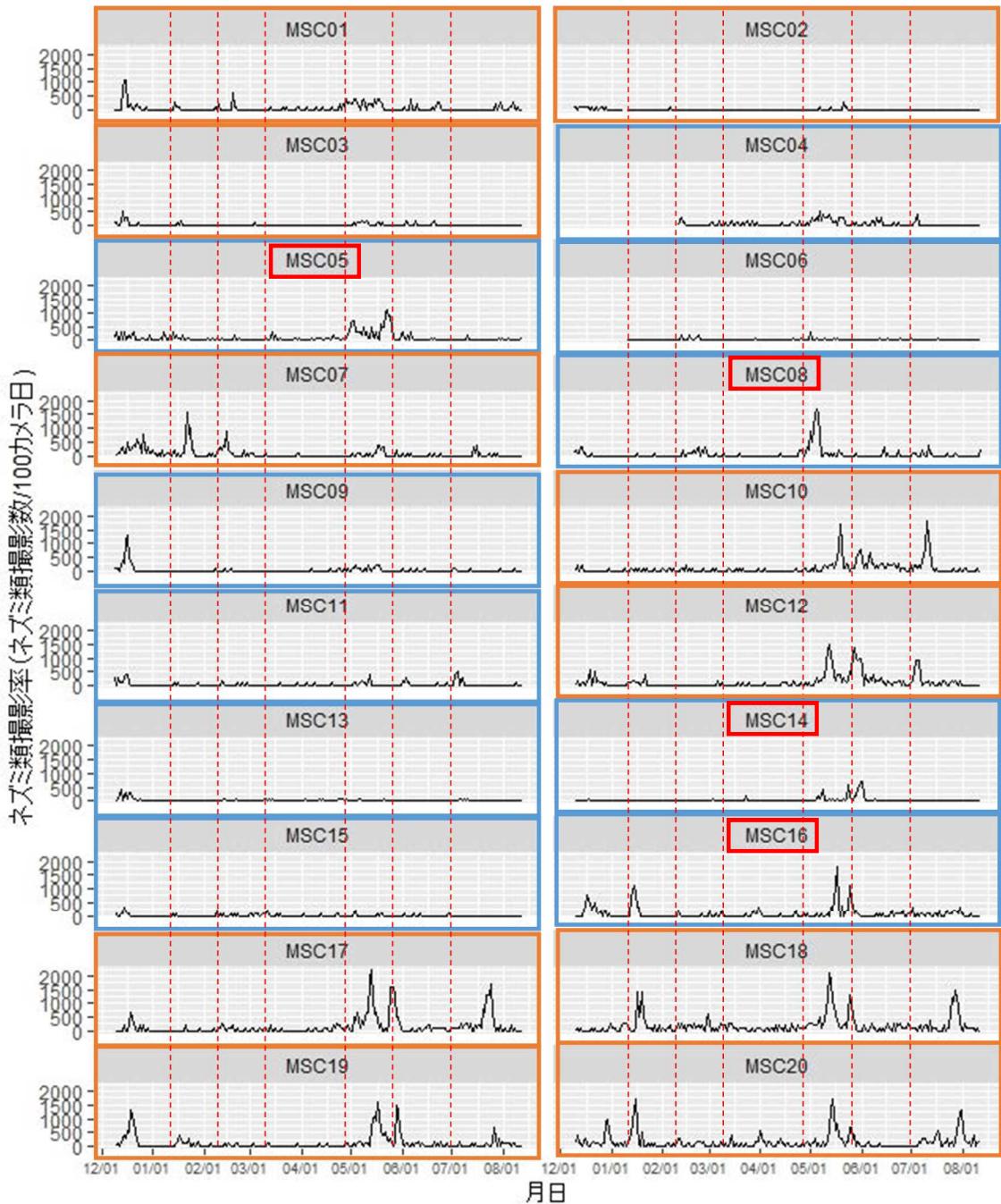


図8 各センサーカメラにおけるネズミ類撮影率の推移

(青枠：対象範囲内、橙枠：対象範囲外)

※地点名の赤枠は対象範囲内で令和3（2021）年5月以降の撮影率が比較的高かった地点を示す。

＜参考＞ 林野庁による外来ネズミ類対策結果（令和2（2020）年2月～6月）

